

全標協広報

2022 4
NO. 351

○令和4年度事業計画	1
○生活道路安全対策ツール「e-防園」	2
○子どもを守るうプロジェクト（愛知県）	4
○小柳氏が緑十字金章を受章	5
○北陸地方整備局との意見交換会	6
○交通安全下敷きの寄贈	7
○全標協周辺の名所等	8
○お知らせ	10

トラフィックサポーターはホームページでもご覧になれます。

当機関紙の感想等は下記にご連絡ください。

発行所 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-5-19にしかわビル3F（一社）全国道路標識・標示業協会
TEL 03-3262-0836 Eメール soumu@zenhyokyo.or.jp ホームページ：<https://www.zenhyokyo.or.jp/>

令和4年度事業計画

道路標識、路面標示及び防護柵等の交通安全施設は、安全かつ快適な道路交通の確保に不可欠である。

道路標識標示業界は、道路標識の老朽化対策、路面標示の適切な更新、通学通園路の安全対策、標識標示の国際化対応、人材の確保などの諸課題に対応しなければならず、そのために必要な予算の確保と優秀な技能者の育成が重要課題となっている。

一般社団法人全国道路標識・標示業協会（以下「全標協」という。）は、これらの情勢を踏まえ、技能者の育成及び交通安全施設関係予算の確保を中心とした各種事業を本事業計画に基づき着実に推進することとする。

1 技能者育成事業の推進

(1) 登録基幹技能者講習の実施

- ア 7月及び11月に富士教育訓練センターにおいて登録標識・路面標示基幹技能者講習を実施する。
- イ 更新講習を6月及び12月に通信講座により実施する。

(2) 道路標識点検診断士研修の実施

- ア 9月に富士教育訓練センターにおいて道路標識点検診断士研修を実施する。
- イ 道路標識設置・診断士が道路標識点検診断士の資格を取得するための「特例研修」を4月に東京都において実施する。
- ウ 更新研修を11月及び12月に大阪市及び東京都において実施する。

(3) 路面標示施工技能検定への協力

- ア 中央職業能力開発協会中央技能検定委員である役員等が学科試験問題の作成に協力する。
- イ 各地の実技試験の運営等の協力を行う。

(4) 講習・研修の充実

- ア 登録基幹技能者講習及び道路標識点検診断士

研修の講義方法等の改善など更なる質の向上を図るとともに、教材等の充実に努める。

(5) 全標協講師の育成

- ア 令和3年度に認定された全標協講師について、標識と標示それぞれに責任者を任命し、講師連絡会議を開催する。その活動に対し、従来の講師陣が講師アドバイザーとして支援する。

2 調査研究及び情報収集の推進

- ア 道路標識委員会において次の活動を行う。
 - (ア) 「道路標識設置基準・同解説」及び「道路標識構造便覧」の周知
 - (イ) 今後の道路標識及び課題に関する調査研究
- イ 路面標示委員会において次の活動を行う。
 - (ア) 警察庁通達「横断歩道をはじめとする道路標示の維持管理について」に基づく横断歩道等の適切な維持管理の推進
 - (イ) 「路面標示ハンドブック」の改訂
- ウ 環境・防護柵等委員会において次の活動を行う。
 - (ア) 「生活道路用柵」の普及促進
 - (イ) 防護柵の維持管理に関する研究

3 広報活動の推進

- ア 機関紙「トラフィックサポーター」を年5回発行する。
- イ 全標協ホームページの速やかな情報更新に努める。
- ウ トラフィックサポーター及びホームページの内容の充実に努める。

4 道路標識データベースの推進

- ア 道路標識の各種情報を効率的に管理するために、「全標協道路標識データベースシステム」の整備を引き続き推進する。
- イ 同システムの充実及び普及に努める。

5 講習会の開催に対する支援

ア 各支部及び都道府県協会（以下「支部等」という。）における技術講習会ははじめ各種講習会等に対する支援を行う。

6 関係行政機関への協力及び要望活動等の推進

ア 関係行政機関の施策への協力、全国交通安全運動等の各種行事への協賛を行う。

イ 国土交通省及び警察庁へのタイムリーな予算等要望活動を行う。また、支部等が行う地方整備局等及び都道府県警察への要望活動を支援する。

ウ 道路工事及び標識標示工事の分離発注並びに標識標示点検診断業務の標識標示専門業者への発注を推進するための要請活動を行う。

7 支部等及び関係団体等との連携

ア 年度内に支部長会を4回（うち1回は東ブロック支部長会）開催するとともに、10月に大阪府において西ブロック内支部長・県協会長会議を開催する。

イ 1月に賛助会員との意見交換会を開催し、情報の共有を図る。

ウ 建設関係諸団体との連携に努める。

8 建設キャリアアップシステムへの的確な対応

ア 建設キャリアアップシステム制度に適切に対応する。

9 子どもを守ろうプロジェクトの推進

ア 交通事故、犯罪及び災害から子どもを守るため、カラー塗装等の安全施設を設置するなど

の「子どもを守ろうプロジェクト」活動を推進する。

イ 活動状況をトラフィックサポーター等で積極的に広報する。

ウ 次代を担う子供たちに標識標示への関心を持ってもらうため、活動への参加を促進する。

10 賞揚の推進

ア 功労者の功績に応えるため、叙勲、褒章、国土交通大臣表彰（建設事業関係功労）等の上申を的確に行う。

イ 技術者に誇りを持ってもらうため、優秀施工者国土交通大臣顕彰（建設マスター）及び青年優秀施工者不動産・建設経済局長顕彰（建設ジュニアマスター）の上申を的確に行う。

ウ 総会時に、全標協の運営等功労者及び優良技能者への会長表彰を行う。

11 図書等の発行

ア 「道路標識ハンドブック」及び「路面標示施工技能検定学科試験の手引」の普及に努めるとともに、「路面標示ハンドブック」の改訂作業を進める。

12 全標協の組織の充実強化

ア 会員の増強を図り、組織の充実強化に努める。

イ 新たな支出項目に適切に対応できるよう、全標協の支出項目・金額は費用対効果の見地から不断の見直しを行い、適正な支出となるよう努める。

生活道路安全対策ツール「e-防凶」について

全標協路面標示委員会委員長（宮川興業(株)専務取締役）石井和夫

近年、通学路等生活道路における悲惨な重大事故のニュースを多く目にします。そんな重大事故を1件でも多く減らしたいという思いから警察庁が公開している交通事故統計データを可視化した「e-防凶」を開発しました。少しでも重大事故防止のお役に立てればと思い、どなたでも無料で利用できるようにしました。全標協本部のホームページからダウンロードできるので一度使ってみていただきたいと思っております。

○交通事故統計情報のオープンデータについて

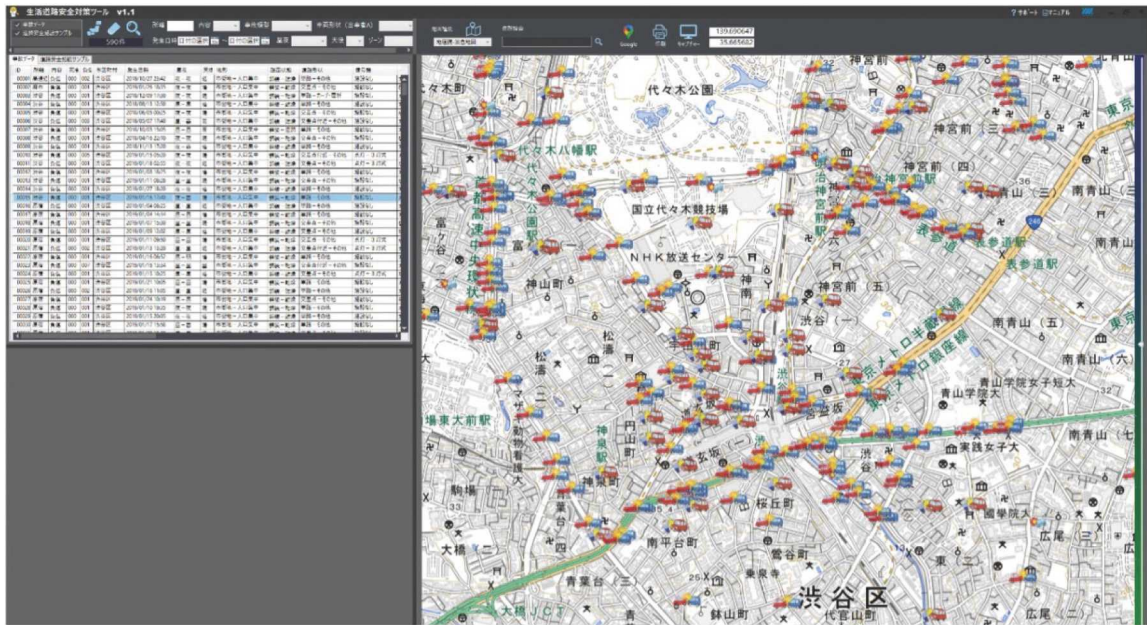
警察庁は「世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画」（令和2年7月17日閣議決定）に基づき、全国30万件の「交通事故統計情報のオープンデータ」を公開しています。このデータは毎年追加公開されていて、現在は2019年と2020年のデータが利用可能です。そのデータは膨大であり、かつCSV形式での公開となっているため、活用に結び付けるにはハードルが高いといった現状があります。その貴重なオープンデータを活用し、社会

へ活かすため、誰でも簡単に可視化できるフリーソフトを開発しました。

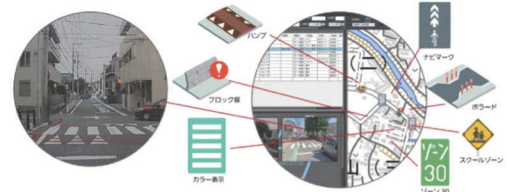
○「e-防図」の概要

本製品は電子地図上での事故発生場所を可視化することにより危機意識の共有ができます。また、場所、日時、事故種別、天候など50項目以上のデータ

の閲覧、検索機能による必要なデータの絞り込みも可能なため、生活道路などの安全対策の提案やゾーン30プラスへの活用が可能です。更に、要望や対策、写真などを登録することができる簡易データベース機能もあり、活用の幅は広がりを見せています。通学路における合同点検などで地域の方や学校関係者、PTAの皆様の活用も期待できます。



事故データの表示



簡易データベースの活用事例

「e-防図」を活用することにより、未来ある子供の命を守り少子高齢化への寄与、そして、持続可能な社会を実現するための地域づくりに貢献できればうれしく思います。

当社ではAI技術による区画線の自動診断等、さまざまなシステムを開発してまいりました。今後も安全・安心なインフラづくりに向け、更に進化させたものをご提供できるように努力を重ねてまいります。



全標協本部ホームページのトップページにこのアイコンがあるのでクリックしてください。

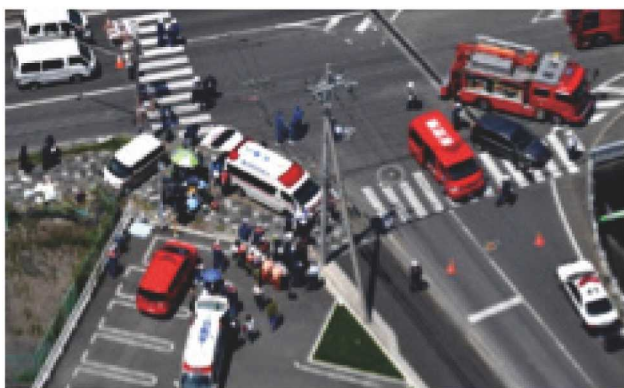
子どもを守ろうプロジェクト 愛知県西尾市車両侵入防止車止設置寄贈

(一社) 愛知県道路標識・標示業協会 子どもを守ろうプロジェクト委員長 本多 徹

(愛知県協会における子どもを守ろうプロジェクトについて)

社会の財産である子供たちを交通事故や犯罪から守ることを目的として、愛知県協会では平成18年度より活動しております。

特に通学路関係は数々の提案をしており、愛知県内の各箇所での子供の安全を確保してまいりました。



(設置寄贈の背景)

令和元年5月、滋賀県大津市において右折車と直進車の衝突に巻き込まれ散歩中の保育園児ら16人が死傷した事故が発生しました。

国の対策としては翌月の6月には関係閣僚会議にて下記事項が決定しました。

- ①未就学児を中心に子供が日常的に集団で移動する経路の安全確保
- ②未就学児を中心に子供が日常的に移動する経路の安全点検

以上の結果から対策として考えられることは防護柵の設置、ボラードの設置、カラー舗装、標識・標示の設置などが想定されています。



また、記憶に新しいところでは、令和3年6月に千葉県八街市の通学路で下校途中だった小学生の児童の列にトラックが突っ込み、5人が巻き込まれ2人が死亡、3人が重傷を負いました。

運転手の男の呼気からは基準値を超えるアルコールが検出されております。

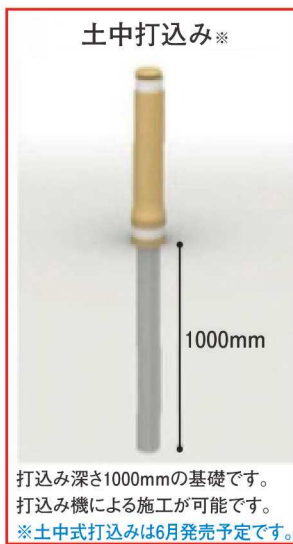
これを受けてその当時の総理大臣、菅総理は通学路の緊急点検とその対策を拡充するとコメントしました。現場はガードレールも歩道と車道を区分する区画線もなく、周りの人は危険だと話していた模様です。

このような背景により、我々は子供たちを事故から未然に守ることを目的として、今回のボランティアを計画いたしました。

国の対応に沿った計画を立案するという一方で、下記に国の対応を記します。

交差点で待機する歩行者保護対策について (案)

- ①既存の防護柵 (ガードレール) 支柱の活用



- ②耐衝撃性を有する製品の活用 (支柱1本で衝突に抵抗できるもの)

私どもは②の案に着目し、そうした車止めを模索し設置をいたしました。

通学路対策として写真の車止めを設置計画をいたしました。この製品は下図のように衝突速度45km/hにおいても車の



侵入を阻止できる構造となっており、施工も容易なため、交差点の滞留部に設置することを計画いたしました。

今回の設置箇所は愛知県西尾市様のご協力を得まして西尾市矢田小学校校区および平坂小学校校区の交差点滞留部に設置をすることになりました。

設置イメージは下図の通りです。



ボラードの詳細構造については、上記の通り、埋め込み杭、支柱及び弾性カバーから出来ており、施工については、ガードレール支柱打込み機にて杭を打ち込み、道路内に設置をしていきます。



弾性カバーが施してありますので、歩行者、自転車ボラードに衝突しても衝撃を吸収してくれます。

写真のように車の侵入を阻止すべく間隔にて設置をし、滞留部で待機をしている人たちを守ることが出来ます。



※このボラードについては「防護柵の設置基準・同解説 ボラード設置便覧(公益社団法人 日本道路協会)」に準拠した製品です。

最後になりますが、設置をさせていただきました西尾市様からは、設置した地区は新興住宅街で若いファミリーが多く住んでいるので、大変有効的なことだと思うと高評価をいただきました。

我々のボランティアだけでは、すべてを救うことは不可能ではありますが、一人でも多くの交通弱者を救うことを祈願して、今後もより安全な提案を続けていきたいと思えます。限られた予算の中で行うことではありますが、卓越した協会員の技術で明るい社会に貢献することをチャレンジし続けたい思っております。



小柳氏が緑十字金章を受章

全標協会員である燕振興工業株式会社(新潟県燕市)の小柳孝礼代表取締役が、この度交通栄誉章緑十字金章を受章されました。

小柳氏は、燕市交通安全協会会長、新潟県交通安全協会理事を務め、長年交通安全活動に尽力した功績が認められました。

例年は1月に関係者多数が出席して開催される「交通安全国民運動中央大会」(一昨年は秋篠宮皇嗣同妃両殿下がご出席)において表彰されますが、新型コロナウイルス感染症のため、中央大会は昨年引き続き中止となりました。

伝達式は2月7日(月)に燕警察署(渡辺将署長)において行われ、山崎和幸新潟県警交通部長から表

彰状(警察庁長官、一般財団法人全日本交通安全協会会長連名)が渡されました。



北陸地方整備局との意見交換会「AI診断技術を使った働き方改革」

(一社)新潟県交通安全施設業協会

(一社)新潟県交通安全施設業協会(全標協北陸支部)と国土交通省北陸地方整備局との意見交換会が12月14日(火)新潟市中央区の新潟グランドホテルにて開催されました。



意見交換会には、北陸地方整備局から道路部の松永情報管理官、松川交通対策課長、荒川交通対策課長補佐の3名、新潟県協会からは5名が出席しました。



内容については「道路案内標識」「区画線」「防護柵」についてそれぞれ意見交換を行った後、「AI診断技術を使った働き方改革」について意見交換が行われました。

AI診断技術を使った働き方改革(区画線診断システム『RoadViewer』)

昨今、建設業界で大きな課題となっているのが、少子高齢化による人手不足の問題です。

建設業に携わる技術者の約3分の1は55歳以上となっており、将来の建設業を支える担い手の確保や若手の育成が重要となっております。

しかし、建設業が人手不足になる原因のひとつとして長時間労働があげられます。それは他の業界や産業と比べて残業時間が多く、週休2日(4週8体制)の採用も少ない状況だからです。

こうした技術者不足を解消するため、新潟県協会としてAI診断技術を使った区画線摩耗調査を北陸地方整備局に打診をおこない、新潟国道事務所(新発田)、長岡国道事務所(小出)、高田河川国道事務所(糸魚川)の3箇所です試験的に調査を実施いたしました。

調査には専用アプリの入ったスマートフォンを自動車のフロントガラスに設置し、走行するだけでカメラが自動的に撮影を行い、AIが道路の区画線の状態を把握。区画線の摩耗具合を「健全」「予防」「塗替え」の3パターンで解析することができます。

調査結果は電子地図上に反映され、塗替え工事の効率化が可能となりました。

区画線の診断は、今までは熟練者の技量で目視判断していましたが、新技術を使うことで若手でも摩耗調査出来るようになり、熟練技術者不足の解消にも繋がります。

また従来工法に比べ各社ばらつきはあるものの、新技術の方では「現場調査」「写真撮影」「調査資料作成」にかかわる工程が平均50%向上、人件費などの経済性も平均74%向上することができました。



北陸地方整備局でも、2024年4月に控えた「働き方改革関連法」の適用、「時間外労働の上限」や「割増賃金率の増加」など建設業が抱える問題に対し、こうした新技術を採用することに対して前向きな回答が得られました。

今回の結果を踏まえて新技術を導入した場合の調査の信憑性向上のため、このまま継続的に検証を進め、3年間を目途に随時北陸地整へ調査結果を報告し、また再度検討することで決議しました。

交通安全下敷きの警視庁への寄贈

(一社) 全国道路標識・標示業東京都協会 副会長 杉本 利孝



東京都協会の活動内容の一部についてご報告させていただきます。令和4年2月24日警視庁交通部にて、当協会が推進している「子どもを守ろうプロジェクト」の一環として交通安全啓蒙下敷き(協会オリジナルデザイン)を1万枚寄贈致しました。

贈呈式には、早川智之交通部長、石川誠参事官、作道英文交通総務課長がご出席くださり、当協会か

らは宮川訓会長、高橋英司・立野滋・杉本利孝の3副会長が出席して参りました。

この下敷き贈呈は、平成23年から始まりました「子どもを守ろうプロジェクト」を進めていく中で、協会幹事が様々な意見を参考にし、子供たちに解り易く交通安全の意識を高く持ってもらうには、という考えから始まったものです。絵柄や内容を変えながら毎年1万枚寄贈させていただき、警視庁、学校関係者や児童から大変ご好評を頂戴しております。

おかげさまで、この長年にわたる活動が評価され、昨年の11月25日に当協会に対し警視庁より「秋の交通功労者」の感謝状を賜りました。

子供達の痛ましい事故が後を絶たない中、現在では様々な交通事故対策の施策が進められています。当協会も関係機関へ向けて様々な提言や提案を、今後も引き続き行っていくとともに、これからの未来を担う子供たちの交通安全教育にも力を入れていきたいと考えています。



夜間の安全走行を
サポートする3Mの
テクノロジー

3M Japan Group
スリーエム ジャパン株式会社
トランスポート シーフティ事業部
〒141-8684
東京都品川区北品川6-7-29
<http://www.mmm.co.jp/ref/>

3M™ 全天候型溶融式路面標示材 3M™ All Weather Thermoplastic (AWT)



AWTは雨天時の反射エレメントと大粒径ガラスビーズを混合した特殊反射素子を散布することにより、雨天時・晴天時ともに優れた視認性を提供します。

特殊反射エレメント

カスタマーコールセンター
製品についてのお問い合わせはナビダイヤルで
0570-012-123
ナビダイヤル市内通話料金でご利用いただけます。
受付時間/8:45~17:15 月~金(土・日・祝・年末年始は除く)
3M、ダイヤモンドグレードは3M社の商標です。

3M™ ダイヤモンドグレード™ DG³ 超高輝度反射シート(広角プリズム型フルキューブ)



3M™ ダイヤモンドグレード™ DG³ 超高輝度反射シートは、マイクロリプリケーション(高精細表面)技術によってほぼ100%の反射面をもつ夜間でも明るく見やすい、反射シートです。

フルキューブ(DG³)



全標協周辺の名所等

全標協周辺には多数の有名な施設、寺社等があります。会議等で全標協(千代田区麴町三丁目5番地19)や総会会場のホテルグランドアーク半蔵門(千代田区隼町1番1号)に来られ、時間的余裕がある時は、ご覧になってはいかがでしょうか。

1 東京ガーデンテラス紀尾井町(紀尾井町1番2～4号)



東京ガーデンテラス紀尾井町

ホテル、オフィス、マンションなどの複合型施設。2016年竣工。赤坂プリンスホテルの跡地。江戸時代は紀州徳川家屋敷。

約3万㎡の敷地は、「光の森」など緑と水が多く、常に何らかの花が咲いている。



旧李王家東京邸(赤坂プリンスクラシックハウス)

ガーデンテラス内の赤坂プリンスクラシックハウスは、旧李王家東京邸(1930年竣工、東京都指定有形文化財)を曳家、修復したもの。クラシックハウスの南側には名和晃平作の白い鹿のオブジェ「White Deer」。西側にはバラのアーチ。

紀尾井町通り側(ホテルニューオータニの向かい)には大巻伸嗣作のカラフルなオブジェ。

2 ホテルニューオータニ(紀尾井町4番1号)

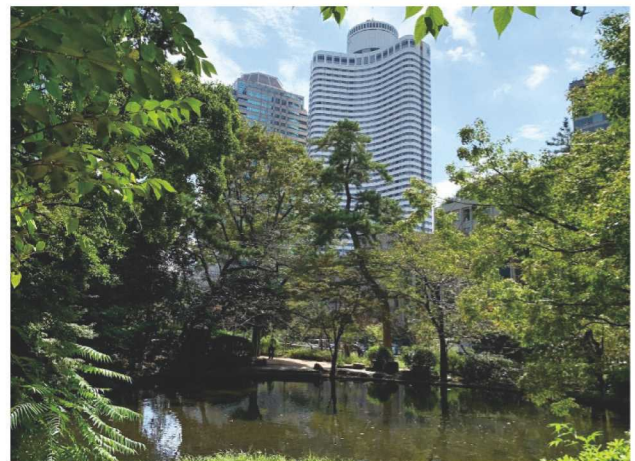
江戸時代は彦根藩井伊家屋敷。前回の東京オリンピック開催の1964年開業。敷地約7万㎡。



ホテルニューオータニ日本庭園

日本庭園は約4万㎡。池泉回遊式の清泉池には朱色の太鼓橋が架かり、多数の鯉。大滝は高さ約6メートル。

3 清水谷公園(紀尾井町2番1号)



清水谷公園

江戸時代は紀州徳川家屋敷。1890年に開園し、現在は区立。約1万㎡。1878年に近くで大久保利通が暗殺され、1884年に哀悼碑が完成。高さ約6メートル。心字池があり、湧水が復元されている。

ホテルニューオータニとガーデンテラス、清水谷公園の間の通り(紀尾井町通り)の街路樹は八重桜

のカンザンで、4月上旬頃に見事な花が咲く。

4 平河天満宮 (平河町一丁目7番5号)

太田道灌が1478年に創建。北側のビルや南側のマンションも当時は神社の敷地。平河町の町名は神社名にちなみ名付けられた。



平河天満宮

銅鳥居は1844年建設。石製で銅板が巻き付けられている。空襲の際の機銃掃射により銅板の一部が欠損している。拝殿は戦災で焼失し、1969年に再建。4基の石牛は1852年に奉納されたもの。

5 国立劇場 (隼町4番1号)



国立劇場前庭

江戸時代は明石藩松平家屋敷。前庭に10種類のサクラがあり、桜の名所。北側には全標協の通常総会が開催されるホテルグランドアーク半蔵門。南隣は最高裁判所(1974年竣工)。

6 駐日英国大使館 (一番町1番)



駐日英国大使館

七戸藩など複数の藩の屋敷跡。1874年に建設された赤れんがの建物は関東大震災(1923年)で倒壊。現在の建物は1929年竣工。

7 日枝神社 (永田町二丁目10番5号)



日枝神社

江戸三大祭^{さんのお}の山王祭が行われる。1478年に太田道灌が川越日枝神社^{ひえ}を勧請。1659年現在地に遷座。

全国の日吉・日枝・山王神社の総本社は滋賀県大津市の日吉大社^{ひよしたいしゃ}で、かつては日吉社と称した。「山王権現」とも呼ばれ、猿を神の使いとする。

山王鳥居から登る男坂は、53段で段差も大きい。坂を登り切ると神門。1967年に奉納された能面師鈴木慶雲作の一对の神猿像(木製)がガラス内に。境内には狛犬ではなく猿が置かれていて、本殿前の左がメスの神猿像(子猿を抱いている。)、右がオスの神猿像。社殿は空襲で焼失し、1958年に再建。稲荷参道にはおびただしい数の朱色の鳥居「千本鳥居」が建てられている。外堀通り側からはエスカレーターで登ることができる。

お知らせ

入 会

- (株)セイノー防災工業 (中部支部)
代表取締役 和田 展明
〒503-0977 岐阜県大垣市南若森4-82
TEL0584-78-7181 Fax78-7190
- (株)セレクト (九州協会)
代表取締役 松本 伸吉
〒811-1322 福岡県福岡市南区弥永4-10-21
TEL092-915-7470 Fax915-7471
- (株)ダイシ (九州協会)
代表取締役 秋山 友陽
〒812-0874 福岡県福岡市博多区光丘町1-1-36
TEL092-591-0555 Fax591-3305

住所等変更

- (株)フジペン (東北支部)
〒013-0061 秋田県横手市横手町字三ノ口16
TEL0182-32-0829 Fax32-6170
- 日栄興業(株) (関東支部)
<東京から千葉へ移転>
〒260-0807 千葉県千葉市中央区松ヶ丘町18-1
TEL043-400-2757 Fax308-7400
- (株)ケーワンセキュリティ→ (株)ケーワン (関東支部)
- (株)イセヤス建材 (中部支部)
愛知県豊橋市菰口町2-66

代表者変更

- 東亜交通産業(株) (関東支部)
代表取締役 峯村 豊彦→峯村 和彦

組織変更

- 西日本ディックライト(株)→
日本ディックライト(株) (九州協会)

広報・教育委員会委員

(トラフィックサポーター編集担当)

委員長 松村みち子

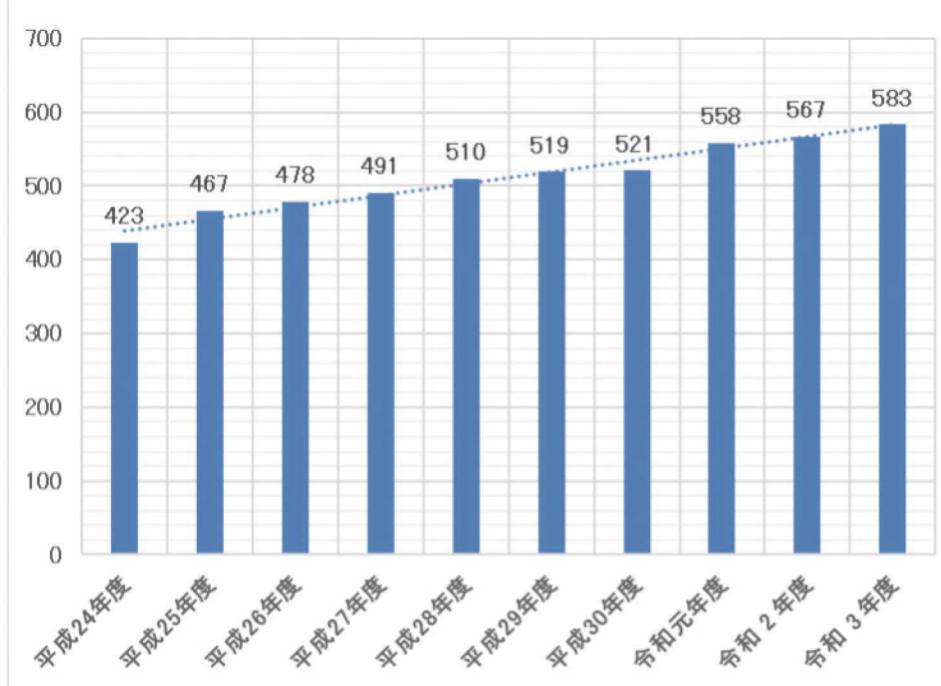
委員	安藤 勝	石川 盛昭	磯兼 忠
	岡根 隆資	小畑 啓一	笠原 孝志
	鎌田 洋一	菰田 潔	塚田 哲也
	辻野 善久	中村 弘一	長嶋 良
	南雲 靖秀	藤岡 基樹	本多 徹
	前田 年輝	山下 利治	(五十音順)
事務局	村上 寿一		

[全標協会員数]

支部(協会)	正会員数
北海道	39
東北	49
関東	168
北陸	39
中部	82
関西	55
中国	44
四国	40
九州	61
沖縄	9
合計	586

(令和4年4月1日現在)

正会員数推移



(年度末会員数)